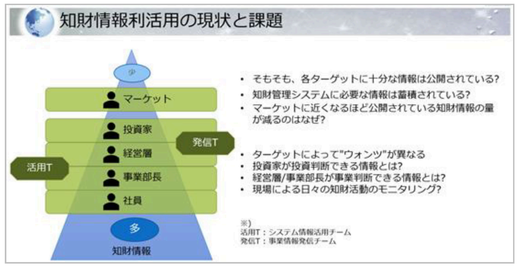
投資家・経営者
Investor, Executive

提示

2 CGC
Corporate Governance Code

企業価値評価に寄与する知的財産情報の活用方法に興味はありませんか？

第2小委員会では、社内の知的財産管理システムに蓄積された様々なデータの活用方法や、CGC対応として投資家向けに有益な情報を提供するための知財情報の管理方法に焦点を当てた調査・研究を進めています。



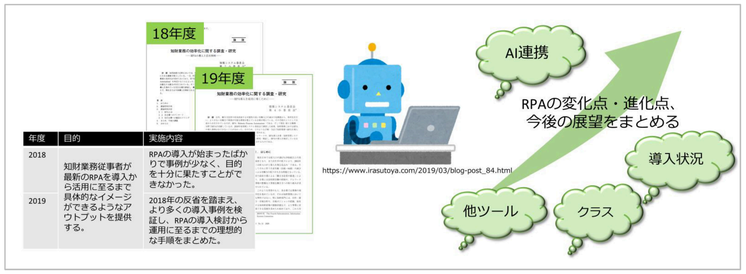
抽出

取得

4 RPA
Robotic Process Automation

- RPAを用いた知財業務の効率化に関する調査・研究 -

最新のRPAの機能や状況を把握するとともに、知財業務効率化へのRPAの活用に関する調査研究を行っています。企業の知財部門および特許事務所を対象にRPA導入状況や実施内容に関するアンケートを、システムベンダーを対象に最新機能などに関するヒアリングを、それぞれ実施し、RPAの変化点・進化点、そして今後の展望をまとめています。



入力

知財管理 システム
IP Management System

蓄積

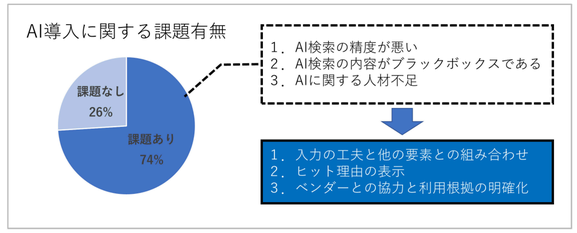
調査結果

調査

3 AI
Artificial Intelligence

AI技術の発展により、知的財産分野でもAIを活用した知財業務の効率化が求められていますが、課題も多いようです。情報システム委員会のアンケート結果から、AI調査の精度が悪い、内容がブラックボックスである、AIを理解している人材が少ないという課題が浮き彫りになりました。

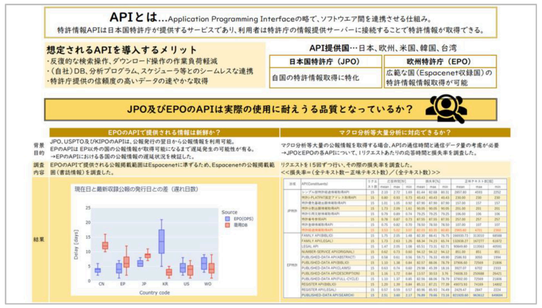
これに対し、検索文章を長文化するなどの工夫やIPCとの組み合わせ利用などにより精度向上が可能であること、ヒットした案件の説明を提供するシステムの利用が解決策として挙げられました。また、ベンダーとの協力や会社規模に応じた作業の選択も人材課題の解決策として考えられています。



知財 DB
Data Base

提供

知財 庁
Patent Office

1 API
Application Programming Interface

特許庁が提供している特許情報APIの利用について研究しています。APIは、特許情報や手続き書類を機械的に取得できるため、情報参照・入力等の作業負担軽減や特許情報の利活用の幅の拡大が期待されています。このAPIの利用状況や課題を把握し、利活用の考え方・方法を提言します。